

図書館通い

何回かレポートしてきたが、退職後の「居場所」として図書館を利用している。自宅に閉じこもるのではなく、できるだけ歩くためにも、図書館通いを続けてきた。

写真は名古屋大学の中央図書館である。自宅の星ヶ丘から地下鉄「本山駅」で降り、四谷通の坂道を歩いて 10 数分。日曜日をのぞいて、毎朝 8 時頃から利用させてもらった。ただし年 2 回、4 週間にわたり「試験期間」ということで利用できなかった。



昨年の今ごろも利用できない期間であり、猛暑のなか「流浪の民」のような生活を続けた。よく利用したのが、写真下の名古屋市役所「市民情報センター」。ちょうど大相撲名古屋場所が行なわれており、市役所付近はふれ太鼓が鳴り響いていた。地下鉄などでも、若いお相撲さんの姿をよく見かけた。8 時 45 分のオープンに入室して、資料コーナーで新聞や資料を読んだ。新聞をコピーして、レポートを書くことも多かった。



手前に市民相談や情報公開の窓口もあり、大きな声が聞こえたりした。定期的に情報公開請求する人、各種相談に訪れる人などを見かけた。市役所と市民との「関係」を知るうえで参考になった。愛知県庁西庁舎 10 階食堂で景色を眺めながら、早めに昼食をすませた。県情報コーナー、県公文書館、金山の名古屋都市センターもよく利用した。こうして夏と冬の 2 回、名大図書館が利用できない時は、なんだか落ち着かない生活が続いた。でも行政資料などを集中して読むことができ、図書館とは違う雰囲気を楽しむ貴重な機会でもあった。

昨年 12 月、大阪に転居してからも図書館通いを続けている。今年 3 月までは西長堀の大阪市立中央図書館に、連日のように通った。地下鉄の駅に直結して便利で、「研究個室」も予約でき、担当者とも顔なじみになった。ただし、私のような年配者が多く、どうも調子が上がらない。それで 4 月から高い「通勤」定期券を買って、すこし遠いが地下鉄御堂筋線「あびこ駅」まで足を伸ばし、大阪市立大学「学術情報総合センター」図書館を利用させてもらうことにした。ひろい館内を利用してきたが、最近は「サイレントスペース」で本を読み、作業することが多い。とにかくサイレントなのがいい。スペースは狭いが、壁ぎわだと落ち着く。「壁ぎわ族」だ。(なお大阪市立中央図書館も、中日・東京新聞などをチェック、コピーするため定期的に利用している)



大阪市大は名古屋大とは違い、「試験期間」中の学外者立ち入り制限がない。これで大いに助かっている。クーラーで涼みながら、本を読んでいると、つい眠気に襲われる。これも「夏バテ対策」か？

(2018 年 7 月 22 日)